

令和元年度第1回さぬき市総合教育会議議事録

1 開催日時	令和元年5月31日(金) 開 会 午後3時00分 閉 会 午後5時15分		
2 場 所	さぬき市教育委員会会議室		
3 出席者	市長	大山 茂樹	
	教育委員会	安藤 正倫 徳田 二三男 得丸 慶子 廣瀬 強 多田 俊 西尾 由香	
	事務局	教育部長	中野 敏記
		教育総務課長	間嶋 文一
		学校教育課長	富田 克美
		学校教育課主幹	渡邊 ひとみ
		学校教育課主任指導主事	田中 由賀里
		生涯学習課長	細川 史朗
		幼保こども園課長	多田 千稔
		人権推進課長	山田 謙二
		教育総務課課長補佐	高西 恵
教育総務課係長	佐藤 理絵		
その他説明等のため出席した者	なし		
4 会議に付した協議・調整事項	<p>(1) 学校への携帯電話・スマートフォン等の持込みについて</p> <p>(2) いじめ・不登校について</p> <p>(3) その他</p>		
5 特記事項	傍聴人 なし		
6 会議内容	<p>開 会</p> <p>教育部長 ただ今から、令和元年度第1回さぬき市総合教育会議を開会いたします。 なお、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項に基づき、総合教育会議は原則公開とされておりますが、今回の会議では、傍聴人はいません。 それでは、開会に当たり、市長から御挨拶をお願いします。</p> <p>市長 (挨拶)</p> <p>教育部長 ありがとうございます。</p>		

	続いて、教育委員会教育長から御挨拶をお願いします。
教育長	(挨拶)
協議・調整事項	
教育部長	それでは、協議・調整事項に入ります。さぬき市総合教育会議運営規程第3条の規定に基づき、協議・調整事項について、ここからの議事進行は、市長をお願いします。
市長	それでは、議題に入ります。 まずは、議題1の学校への携帯電話・スマートフォン等の持込みについて、資料の概要説明をお願いします。
学校教育課主任指導主事	(資料1「学校への携帯電話・スマートフォン等の持込みについて」を説明した。)
市長	ありがとうございました。 この説明を受けて、委員の方々はどうお感じでしょうか。それぞれの委員の御意見をお伺いします。
教育委員	意見というか質問なのですが、この資料にあるスマートフォンを学校に持ち込んでいることを学校が認めている児童・生徒というのは、わざわざ学校に持ってこなければいけない理由というのがあるのでしょうか。
学校教育課主任指導主事	主な理由としては、下校時にどのように帰るか、どこに帰るかということを保護者と相談するためです。特に、ひとり親家庭のお子さんなどは、どこに帰るのかを確認するために、スマートフォンを学校に持ち込んでいるようです。
教育委員	どこに帰るかというのは、自分の家ではなくて、おじいちゃんやおばあちゃんの家へ帰るといようなことですか。
学校教育課主任指導主事	そうです。
市長	それは、スマートフォンを持ち込んでいる児童や生徒が、自分でメールを打つのですか。それとも、位置情報などを利用して、今どこにいるかというのを保護者が確認するのですか。小学生と中学生の場合で、取扱いが違うかもしれませんが。
学校教育課主任指導主事	多いのは、保護者が下校時間に電話を掛けてきてくれるパターンと、子どもの方から、学校が終わったのでどこに帰ればいいのかという確認を電話でやりとりしているパターンです。
市長	メールではなく、電話でやりとりをしていることが多いのでしょうか。
学校教育課主任指導主事	そうです。
市長	それについても、何か御意見はありませんか。
教育委員	そういう状況というのは、昔も今も変わらないと思います。携帯電話がなかった時代は、朝から今日はおじいちゃんおばあちゃん家に帰るといったことをそれなりに決めていたように、前もってその段取りをして予定を組むことが普通でした。最近は、スマートフォンを持っているが故に、ギリギリまで予定を組まず、場当たりのになっているケースが多いのではないのでしょうか。最初

	<p>からおじいちゃんおばあちゃんの家に帰ると決めておけば、スマートフォンは必要ないはずですし、もし、予定変更が生じる場合は、保護者が学校に電話するなど、何らかの対策をしておけば、わざわざスマートフォンを学校へ持ってくる必要がないと思います。スマートフォンなしでもできる方法を、もう少し探った方がいいのではないかとというのが、私の正直な感想です。</p> <p>それに、小さい子がスマートフォンを持つメリットは、全くないと考えます。例えば、子どもにお金を持たせて、縁日の露店が並ぶところを「何も買っちゃいけないよ。」と言って子ども一人で通過させたときに、本当に何も買わずに帰って来られる子どもは、もちろんいると思いますが、誰も見てないからどんどん買ってしまう子どもの方が多いのではないのでしょうか。そう考えると、誰にも見られていないからといって、親が知らない間に、悪影響のあるようなサイトを見てしまう子どもは多いと思うのです。だから、そういう危険性のあるスマートフォンは、小さいうちから与えない方が良いでしょう。</p>
教育委員	<p>学校にはスマートフォンを持ち込んでいないけれども、家に帰れば持っているという子どもは、もっといると思います。実際にスマートフォンを所持しているという子どもは、多いのではないですか。</p>
学校教育課 主任指導主事	<p>それについては調査中で、現在集計に当たっているところです。</p>
市長	<p>どうですか。最近まで学校現場におられた委員は、スマートフォンが子どもたちに与える影響のようなものを、何か感じられたことがありますか。</p>
教育委員	<p>先ほどの委員の意見にも通ずるところがあるのですが、スマートフォンや携帯電話を学校に持ち込むことで、子どもと親だけが情報を共有するようになり、そこに学校は関与しなくなってしまう。子どもとその保護者の関係に学校が関わるといことが全くなくなると、教育が進めにくくなってしまっているのではないかと危惧しているところです。</p> <p>もう一つは、スマートフォンや携帯電話の危険性というものを、保護者が十分に理解したうえで、子どもに持たせているのかということなんです。スマートフォンの利用について、PTA研修会を開催したこともありますが、非常に参加人数が少なかったことを覚えています。では、参加されなかった方が、スマートフォンについての正しい知識を持っているのかといえば、そうではないのが実状です。保護者の方が、スマートフォンの危険性を十分に把握しているのか、果たして疑問です。</p>
教育委員	<p>私は、子どもがスマートフォンを所持することで、位置情報などが分かり、登下校中の子どもの安全が確保されるという面は少しあると思います。</p> <p>ただ、私も3月末まで幼稚園で勤務していましたので、幼稚園の子どもたちのスマートフォンを巡る環境をお話ししますと、もちろん、幼稚園児でスマートフォンを園に持ち込んでいる子どもはいませんが、家へ帰った後、スマートフォンやパソコンでYouTubeを遅い時間まで長時間見ている子どもがいたことは事実です。そして、まだ幼い幼稚園児ですから、YouTubeの世界と現実の世界が混同してしまい、幼稚園に登園しても、YouTubeの話ばかり</p>

	<p>している園児がおりました。小学校の現場でも、YouTubeのことを話し出すと話が止まらない児童がいるようです。スマートフォンやゲーム機など、手に持っていないと不安になるという、依存症状が出ている子どももたくさんいると聞いたことがありますので、小学校や中学校において、スマートフォンの持ち込みを一切禁止するというのも、当然の流れかもしれません。</p>
市長	<p>そうですね。他の委員は、どうお感じですか。</p>
教育委員	<p>我が家は、子どもの年齢に開きがあり、20歳、18歳、12歳の子どもがいます。一番上の子どものときは、スマートフォンに対して多少ナーバスになっていましたので、高校生になってから自分のスマートフォンを持たせました。そうすると、年の離れた一番下の子どもが、「なんで姉ちゃんはスマホを持っているのに、僕には持たせてくれないのか。周りの友達を持っている子もいるのに。」と言い出したのです。やはり一番下の子どもは、生まれたときからスマートフォンやゲーム機がありふれた環境で育ってきているので、それがあって当たり前という感覚になっています。当初、下の子は、私の保有するスマートフォンを使って友達とLINEをしていましたが、今はもう自分のスマートフォンを持っています。といっても、家庭内で約束事を決めて、フィルタリング機能や子どもが使ったアプリケーションの情報が保護者に通知されるような機能を活用したうえで使用させています。YouTubeも子どもが見たいというので見せてはいますが、最近ではテレビでYouTubeが見られますので、スマートフォンでは見ないという決まりにしています。</p> <p>ただ、他の保護者を見ていると、3歳くらいの子どもでも、お母さんのスマートフォンを借りて、待ち時間などにスマートフォンを触っている光景はよく見掛けます。</p>
市長	<p>それは、すごいですね。</p>
教育委員	<p>確かに、スマートフォンやゲームに関する知識の習得は、子どもの方が格段に早いので、一度持たせてしまったら、なかなか止められないですよ。だからこそ、スマートフォンを持たせる・持たせないというのを考えるに当たって、保護者がその責務を意識しているのかが非常に重要です。</p> <p>先ほど委員から意見があったように、今はまだ、保護者の意識が足りてないというのは、私もそのとおりだと思います。</p>
教育委員	<p>私は、この資料を見て、市内の小・中学校においてスマートフォン等を持ち込んでいる事例は非常に少なく、大変良いことだと思いました。学校でスマートフォンは必要ないのです。家庭事情でどうしても学校にスマートフォンを持ち込まなければいけない家庭というのは、学校に許可を得て持ち込んでいるわけですし、それはそれでいいと思います。</p> <p>要は、ほとんどの中学生が家で持っていると思われるスマートフォンを、どういうふう利用するかについて、保護者の考え方や意識に違いがあり過ぎるというのが問題ではないですか。</p>
市長	<p>教育長は、議会の答弁でも、スマートフォンの利用時間を1日何時間にするというような決まりを作るといった答弁をされていましたが、今の立場で、学</p>

	校への携帯電話やスマートフォンの持込みに対して、懸念されることやメリットなど、どのように考えていますか。
教育長	<p>これを今回の総合教育会議の議題にして皆さんの意見を聴きたいと考えた根底には、大阪府で一定のルールの下に、携帯電話やスマートフォンの校内持込みが解禁され、その影響もあり、文部科学省も携帯電話やスマートフォンの学校への持込みを今一度見直すという方向で動き出したことがあります。</p> <p>そういう流れのなかで、小・中学校の校長会でも対応を議論していますし、中学校などでは生徒会が中心となって、スマートフォンの利用の仕方について十分議論が行われています。</p> <p>やはり、子どもたちがスマートフォンを持つのであれば、しっかりと自制心を鍛えたいのでそれを所有する必要があると思いますし、その自制心は教育で育てるべきなのかもしれませんが、それは非常に難しいことです。</p> <p>また、SNS などを使ったネットいじめも問題になってきているので、そのことについても十分考える必要があると感じています。</p>
市長	度を越えた利用によって、スマートフォン依存やインターネット依存のような依存症状が出てくることも、考えていかなければいけませんね。
教育長	先日新聞の記事で見ましたが、スマートフォン依存症というのは、スマートフォンを触っているときには非常に元気で意欲が湧いてくるけれども、触ることができなくなると途端に無気力になるそうです。そして、それだけに限らず、自分が気に入らないと感じたら物に当たったり人に当たったり、「切れる」ということが反応として出てくるということでした。
市長	でも、好きなことをしているときは元気だけれども、嫌いなことをしているときには元気がないというのは、普通のことですよね。そのことに対しては、本質的な問題ではないと思うのですが、スマートフォン依存というのは、何が一番怖いことなのでしょうか。
学校教育課主任指導主事	子どもの場合は、自分でコントロールすることが難しいので、止められなくなるところが問題だと考えています。
市長	<p>私の考えとしては、その依存症が本人の問題でとどまっているのに規制を加えるのは、個人的には好きではありません。でも、それが犯罪につながるとか、第三者に悪影響を与えとかであれば、もちろん規制していかなければいけないと思います。</p> <p>スマートフォンを使用することによって、第三者に悪影響を与えたり、見ず知らずの人と接する機会が増えたりというのはあるのでしょうか。</p>
学校教育課主任指導主事	それは、あると思います。
市長	スマートフォンを直ちに悪者にするのではなくて、この面では便利だけれども、この面は危ないことだから止めようと、本人も保護者も自分で考えてコントロールする力を身に付けていけば良いと思いますが、甘いですか。そんな簡単なことではなく、スマートフォンを使用するようになれば、中毒的な感じになるのでしょうか。

	<p>スマートフォンの良い点・悪い点を含めて、今後どのようにしていけばよいかについて、もう少し御意見をお聴かせください。</p>
教育委員	<p>スマートフォンで SNS を使用し、それで見知らぬ人と連絡を取るようになり、事件に巻き込まれるというのは、大変心配です。また、長時間のゲームで就寝時間が非常に遅くなり、次の日の授業に影響があることも問題として挙げられます。</p> <p>しかし、そういった問題は、フィルタリング機能を利用して、問題のあるようなサイトに入っていけないようにしたり、子ども・保護者・学校でルールをきちんと決めて、それに従って使用したりするというのであれば、解決できると思います。確かに、スマートフォンには非常に便利な機能も含まれていますので、家庭内でしっかりとルール作りをして、うまく活用すれば良いと考えます。</p>
市長	<p>良い部分も、当然あるのではないのかという御意見ですね。</p>
教育委員	<p>はい。</p>
教育委員	<p>インターネットやスマートフォンの怖いところは、相手が本当にその人かということが分からない状態でコミュニケーションを取っているところが非常に怖いところだと思います。</p> <p>また、インターネットがなかった時代は、自分の苦手な人とも接しなければいけませんでしたが。私たちの世代は、そういった経験を踏まえながら社会性を身に付けてきて、その後インターネットやスマートフォンを使うようになったので、別に問題はないと思うのですが、今の子どもたちは、そうではありません。インターネットでは、自分の好きなところだけを見せておけば良いし、嫌な情報はシャットアウトできるので、結局嫌な思いを全くすることなく育ってきている気がするのです。だから、学校で嫌なことがあればネットに逃げ込んだりしているのではないのでしょうか。</p>
教育委員	<p>私が学校で勤務していた頃、夏休みや冬休みの長期休業中には、先生が交代で校外巡視を実施していました。すると、昔はどんなに暑くてもどんなに寒くても、子どもたちがいろいろと工夫しながら、たくさん外で遊んでいたように記憶していますが、最近では、巡視に出向いても子どもに誰一人会うことなく学校に帰ってくるが増えてきました。やはり外遊びをするよりも、家でゲームしたりすることが多くなっているのだと思います。</p> <p>スマートフォンやインターネットの中には無限の世界が広がっているイメージがありますが、それを使用することにより、一方では子どもたちの可能性をすごく狭めている部分もあるのではないかという気がしています。</p> <p>ただ、それをこれから全く使用しないというのは絶対にあり得ないので、そうであれば、子どもたちの生活とどううまく繋いでいくのが非常に大事です。</p>
教育委員	<p>スマートフォンがあれば、何か分からないことがあったときに調べれば、素早く情報を得ることができるので、とても助かっています。しかし、そればかりに頼りすぎると、苦労して手に入れた情報ではないので、すぐに忘れてし</p>

	<p>まったりしますよね。</p>
教育委員	<p>皆さんの意見は、本当にそのとおりだと思います。</p> <p>それから、子どもを見ていると、やっぱりどの子も一人になりたくないという気持ちが強いのではないのでしょうか。クラスの中で、学校の中で、一人になりたくないから、否応なしに LINE をしている子もいるように感じます。そして、クラスの中では表向きは仲が良いように見えても、裏では LINE で悪口を言い合っているケースもあるのではないですか。でも、子どもの本質的なものは、昔から何も変わってないのでしょうかね。</p> <p>やはり、私たち大人がしっかり管理して、使い方をきちんと教えていかないといけませんね。食事中に平気でスマートフォンを触ったり、学校や仕事を休みますという報告を LINE で連絡したり、そんな風潮になってきているのも非常に気掛かりです。</p>
教育長	<p>スマートフォンというのは、様々な機能を持ち合わせたコンピュータですし、ゲーム機についても無尽蔵ですよね。例えば、漫画本は一冊読めば終わりですが、ゲームは二十四時間、一週間続けようと思ったら、続けられるものなのです。そういう中毒性のあるものだと分かったうえで使用しなければいけないと思います。</p> <p>また、先ほど委員も言われていたように、人間は一人では生きていけないということです。友達がいなかったら、何かすごく不安になってしまうものなのです。だから、LINE いじめを始めとする、子どもの人間関係を巡るトラブルについては、特に指導する必要があると感じています。やはり、どんな場面でも自分でよく考えて、自分で進むことができる子どもを育てることが非常に重要です。</p> <p>スマートフォンの良い面としては、豊富な知識を手軽に探せるということでしょうか。いろいろなことを関連づけて探せられるのは、すごく便利だと感じています。</p> <p>そういったスマートフォンの良い点・悪い点を踏まえて、大人がしっかり考えて子どもたちをコントロールするのが、家庭教育であり、学校教育の一つであると思います。</p>
市長	<p>皆さんの意見をまとめると、スマートフォンというのは、使い方や使う段階に応じて、上手に使用するというルールさえ決めれば、人間にとって必ずプラスになるということですよ。</p> <p>しかし、とんでもない事件に巻き込まれるような危険性も当然あるので、それは家庭と学校と地域がしっかり話し合い、その人にあったスマートフォンの使い方を決めない限り、絶対うまくいかないと思います。そして、子どもの状況を見て、その子に応じた対応ができれば、スマートフォンに限らず教育全般について、新しいことに取り組めるのではないかという気がしています。それは、非常に難しいことですが、そこは先生の腕の見せどころでもありますね。</p> <p>これまでの議論の中で話題に出ていた LINE いじめの問題は、次の議題にも重なる部分が多いので、ここで次の議題に移らせてください。</p> <p>二つ目の議題は、いじめ・不登校についてです。また委員の皆さんから、御</p>

	意見をお聴かせください。
教育委員	いじめ自体は、今も昔も変わらないと思います。気に入らないからいじめるというのが、事の発端ですよね。私もいじめられた経験はありますが、でも、負けん気が強かったので、知らないふりをしていたらいつの間にかいじめが収まっていたというのは、確かにありました。 そして、今のいじめというのは、いじめをやっていることが表に出ていなくて、表向きはニコニコしながら陰でいじめたり、LINEで悪口を流したり、そういうやり方が増えてきているのではないのでしょうか。
市長	学校現場にいた委員の皆さんは、子どもたちを近くで見てきて、どうお感じですか。
教育委員	いじめは、いじめられた子どもたちの気持ちが、いじめた側には分からないということが一番大きい問題だと私は思っています。私も、小学校のときにいじめを受けた経験があり、そのいじめを自分が克服できたからこそ、いじめの解決方法が少し分かるのですが、でも、きっとその解決策にたどり着いていない子どもがたくさんいるはずですよ。そのような子どもたちに対して、周りの大人や友達が、いかに早くその苦しみに気付けるかによって、その子を助けられることに繋がると思うのです。全校朝会でも、子どもたちにこのような話を何度もしてきました。
教育委員	やはり、いじている子もその傍観者も、いじている意識というのが全くないケースが多いと思います。いじている子と一対一で時間を掛けてじっくり話をすれば、やっといじめだと分かってもらえるのですが、ただ単に、自分が面白いからという軽い気持ちで、相手をからかったりしていることが多いのです。いじめられている子が、すごく辛い気持ちになっていることが分からないという子が非常にたくさんおられます。また、いじめを見ている周りの子どもは、傍観しているだけでもいじめに加担しているのだという認識が欠けていることも、いじめがなかなか減らない一因でしょう。 それをきちんと分からせてあげるのが、教師の役割だと考えます。
市長	女性と男性で、いじめを受けたりいじめをしたりする構造は、多少違いがあるのでしょうか。それとも、あまり変わらないのでしょうか。
教育委員	性別が異なっても、根本的ないじめの構造は変わらないと思います。 それから、私が日頃感じていることなのですが、テレビを見ていると、いじられキャラとか、そういう周囲から見ればいじめのようなことを面白がってやっている番組が増えてきているのが気になります。だから、それをテレビで見て、面白いから学校でもやるという流れが、どうかしていると思ってしまいます。
市長	確かに、それはありますね。
教育委員	いじめが良くないと社会全体で言っている割には、一方で、そういうのを許している社会はおかしいと感じています。いじめが、いじている感覚ではなくて、面白いことをやっているというようにすり替えられているところは、非常に怖いです。

教育委員	<p>その通りだと思います。</p> <p>加えて、いじめの行為が、一回すれば終わりというものではなく、何回も何回も終わることなく、ゲーム化してしまっているような気がします。</p>
市長	遊びの一環のようになっているのですか。
教育委員	遊びだと思います。どんどんエスカレートしていく感じもありますね。
教育委員	<p>不登校に関しては、やはり昔は、学校の方が楽しかったというのがあったと思います。だから、ほとんどの子どもが登校していたのではないのでしょうか。</p> <p>今は、テレビがあり、ビデオがあり、スマートフォンがあり、ゲーム機があり、家に居場所があり過ぎて、学校に来られない子どもが増えているのかなと感じています。</p>
教育委員	<p>不登校も、小学校低学年のうちであれば保護者と連携すれば改善できる傾向にあります。が、中学年、高学年になると難しくなってきますよね。それでも、その子どもに会えることができたなら、いろいろ話もできて、学校に来たくない理由を一つひとつ聴いて、その一つひとつを解決していくことで、改善に繋がられます。</p> <p>ただ、最近の教員は、若い方が多くなってきているので、そういった経験を踏まえた対応というのがまだ難しいのではないかと心配しています。</p>
教育委員	優秀な人が教員になり、学校に行くのが当たり前という感覚の教員は多いかもしれませんね。
市長	いじめや不登校の現状は、どうなっていますか。
教育長	<p>いじめについては、非常に軽微なものも含めて報告する流れになってきていますので、いじめの報告件数としては増えてきています。昔であれば、見逃していたようなささいなからかいでも、今はいじめと報告しています。少し過敏過ぎるような気もします。しかし、とんでもないいじめというのは、確実に減ってきています。</p> <p>不登校については、ここ三、四年くらいで増えています。その状況を見ると、これまでは小学校高学年辺りから不登校になり始めて中学校で完全に不登校になるような傾向にありましたが、今は小学校低学年からあります。そういった現状をどのように対応していくのかについて、考えを巡らせています。</p> <p>また、ここ数年で、少年育成センターに設置しているFINEに通ってくる子どもも増えてきています。学校に通うのは難しくても、外へ出ようとするエネルギーがあるのは、良いことだと思います。</p>
市長	<p>不登校だからその人間が弱いということでは、決してありません。何かの要因の表れが、不登校という形になって出ているだけです。それは、きちんと理解しておいてほしいです。</p> <p>それから、人生を長い目で見れば、その尊い命と取引してまで、無理に学校へ行く必要はないということを子どもたちに分かってもらいたいですね。だからと言って、何も努力しなくて大丈夫というように理解してもらっては困るので、その伝え方が難しいところです。</p>
教育委員	皆さんの意見は、本当にうなずけます。

	<p>実際に子どもたちと接して、子どもたちの様子を見てみると、やはり周りの大人と子どもの関わり方が非常に重要だと感じていました。周りの大人が、子どもたちの自尊感情や自己肯定感を高めるような働き掛けをすることができれば、子どもとの関係は前進するはずですよ。</p> <p>また、大人が子どもと関わる時に、子どもを一人の人間として認めて対応していく姿勢も大事ですよ。</p>
教育委員	<p>私は、周りの大人が、あなたのことをちゃんと見ているよ、大事にしているよということを声に出して関わっていくことが、一番遠回りのように見えるかもしれませんが、やはりそれしかないのではないかと考えています。</p>
教育委員	<p>いじめられる側にも問題があると思っている保護者や子どもは多くいると思います。そういう認識の人がいる間は、いじめというのは絶対になくならないのではないのでしょうか。やはり、どんな理由があってもいじめの側が悪いという視点でないと、いじめは解決しません。</p>
市長	<p>いじめや差別をされる側の立場に立って、どれだけ考えられるかということが非常に大切です。</p>
教育委員	<p>親が子どもの言いなりになり過ぎている時代になってきていますよね。いじめの問題も、子どもの言っていることを親が鵜呑みにし過ぎているところがあるのかなと感じています。もちろん、我が子は大事なもので、子どもの言うことを聴く姿勢は大切ですが、度を越えてしまうと問題ですよ。</p> <p>幼児期から、親と子の接し方について、もう少し勉強した方がいいのかなと思います。</p>
教育委員	<p>親が幼児化してきていて、子どもに厳しく言えない親が増えているというのはあると思います。怒らない親が良いというような変な風潮があり、注意するのは怒るのを勘違いしている親もいるので、親が学べる場を充実させることも重要だと感じています。</p>
市長	<p>市内の小中学校の運動会などに参加させていただく機会があるので、そこでの様子を見てみると、本当に仲が良さそうな親子が多いですよ。もちろん、良いことではあるのですが、いろんな成長期に入ったときの適度な親離れ・子離れは非常に大事ですよ。</p> <p>また、今は親と子どもが近過ぎるようになった反面、友達とは良い意味でも悪い意味でも、非常に冷静に接しているような気がします。そういったことは、お感じになりませんか。</p>
教育長	<p>それは、あると思います。やはり、昔に比べると、友達とはシビアな関係になっています。</p> <p>それから、市長が言われるように親と子どもの関係が近過ぎるが故に、親に迷惑を掛けたくない、心配させたくないという子どもが非常に多いですね。</p>
市長	<p>すごく良いことではあります。</p>
教育長	<p>確かに良いことなのですが、結局死ぬほど苦しくても、親には相談できないのです。</p>
市長	<p>なるほど。</p>

教育長	だから、何かあって自分はこれ以上耐えられないという状況になった場合には、親に助けを求めるのではなくて、友達に相談するケースが多いです。
市長	でも、友達に相談するといっても、友達との関係も希薄ですよ。
教育長	それはありますね。表面的な友達付き合いが増えてきているように感じます。でも、そういったドライな付き合いをしているにも関わらず、仲間外れにされたり、無視されたりしたら、非常に落ち込むのですよね。
市長	そういったときのセーフティネットのようなものができれば、いじめで命を絶つということは少なくとも防ぐことができると思いますね。 他の委員はどうですか。
教育委員	先ほどの親子関係についてですが、私が考えるに、親と子どもの仲が良い関係というのは、子どもからすると、親が自分の言うことを聞いてくれるから心地良いという関係で、本来あるべき親子関係とは少し違うような気がします。
市長	あるべき親子関係とは、どのようなものでしょうか。
教育委員	やはり、だめなものだめと言える関係ではないでしょうか。親として、子どもに教えるべきことは、しっかり伝えなければいけないと思います。
市長	いろいろと御意見いただき、ありがとうございました。 では最後に、子どもたちの健全育成のために、教育委員として今気になっていることがあれば、お聴かせください。
教育委員	保護者の教育については、もう少し早いうちから積極的に関わりを持っていけば、現状より良くなりそうだと感じています。 しかし、そういった研修などに全く参加されない保護者に、どうやって興味を持ってもらい、参加してもらおうのかというのが悩むところです。
市長	なかなか難しい問題ですね。
教育委員	そういった保護者の教育に、関心のない保護者が多いです。そういう保護者をどう一緒に巻き込んでいくのが課題だと思います。
教育委員	私も全く同じで、PTA経験者としては、研修などに参加してくれない保護者をどうしていくのかということは、心配していました。 やはり、小学校入学前が非常に肝心で、PTAの意義を理解したり、親同士のコミュニティをしっかりと確立したりすることで、小中学校の様々な研修にも参加してくれることが多いように思います。なので、就学前に保護者の皆さんをある程度育成するというのは、大事な気がします。
市長	子どもの教育よりも、保護者の教育の方が、効果的でスピーディかもしれませんね。
教育委員	本当にそう思います。 子どもや学校がどうこうではなくて、まず家庭をしっかりと整えることが重要です。
市長	他の委員は、どうですか。
教育委員	子どもたちをしっかりと育てていくためには、家庭と学校が協力し、連携するということが大切だと感じています。保護者としっかり話をして、少しずつ信頼関係を築いていくという、その過程も大事にしたいところです。

教育委員	最近、新聞でPTA活動は強制ではないから加入しなくても良いという記事を見たことがあるのですが、保護者と学校が子どもたちのために協力しながら頑張っているのに、PTA未加入の家庭が増えていくと、どうしても両者がバラバラになっていくのではないかとこの恐れがあります。だから、保護者と学校の連携協力の大切さを、もっとアピールしてほしいと思います。
市長	今、いろいろとPTAのお話を聴きましたが、それに加えて、地域との関わりについても、御意見はありませんか。
教育委員	昔に比べたら子どもが外で遊ばなくなった分、近所の人と顔見知りになる機会が減っているのは確かだと思います。ただ、私が知っている志度地区に関して言えば、安全パトロールなどで地域の方々に非常に協力していただいているので、そういったある程度の枠組みを作れば、もう少し子どもたちとの距離が近くなるはずです。
教育委員	地域の子ども会活動でも、子ども会の中だけの活動が多く、地域の人と一緒に何か活動するということが、昔に比べると減ってきています。やはり、地域と協力することで防げる事件や事故もあると思うので、地域との関わりは大事にしたいですね。
教育委員	地域の方に学校に来ていただいて、子どもたちと一緒にいろいろと活動するというのも、非常に良い取組だと思います。
教育委員	私は、何よりも挨拶というのが、子どもたちと地域を結んでいく近道だと感じています。たかが挨拶ですが、されど挨拶です。
教育委員	新しい住宅ができて、子どもはたくさんいるけれども、自治会に入らない家庭というのも増えつつあるので、自治会との関わりが希薄になっているのは事実だと思います。だから、最近の子どもたちの中で何か悪いことをして、地域の人に怒られるという経験をしている子は、非常に少ないでしょうね。
教育長	地域の方に協力いただいている学校支援ボランティア活動をより一層充実させていく必要があるなど、皆さんの意見を聴きながら改めて思いました。学校支援ボランティアの拡充は、子どもたちや学校と地域を結ぶ、良いきっかけになるはずです。
市長	ありがとうございました。 本日は、学校への携帯電話・スマートフォン等の持込みについてと、いじめ・不登校について議論させていただき、さらには、子どもたちの健全育成のために、家庭と地域と学校がこれからいかに役割分担をしていくのかが、議論できたのではないかと思います。うまく役割分担をして、この令和の時代に、美しき調和をしていきたいものですね。 そして、行政も、少し遠くから見ていただけではなくて、一緒になって汗を流しながらやっていきたいと思いますので、委員の皆さんには、これまでと同じように、またこれまで以上に御理解御協力をお願いして結びとしたいと思います。
閉 会	
教育部長	長時間にわたり、ありがとうございました。以上をもちまして、令和元年度

第1回さぬき市総合教育会議を閉会いたします。
